

平成25年 第8回教育委員会会議録

1 日 時

平成25年6月27日(金)

開会 13時00分

閉会 14時00分

2 場 所

教育委員会室

3 出席した委員

金田清委員長、中村健一委員、八重澤美知子委員、横山真紀委員、橋正徹委員、
木下公司教育長

4 説明のため出席した職員

村田潔教育次長、池廣殿雄教育次長、平島敏彦教育次長、表純一教育次長兼教員指導
力向上推進室長、竹中功教育次長兼学校指導課長、濱辺正実教育次長兼スポーツ健康課
長、金戸清外志庶務課長、齊田正活教職員課長、坂井芳子生涯学習課長、中川智夫文化
財課長

5 議案件名及び採決の結果

議案第21号 石川県社会教育委員及び石川県立図書館協議会委員の委嘱について
(原案可決)

6 報告案件

報告第1号 平成26年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況につ
いて

報告第2号 「いしかわ師範塾」学生クラスの受講者募集について

報告第3号 平成26年度石川県公立高等学校入学者選抜方法について

報告第4号 平成25年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況

7 審議の概要

・開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第21号は、人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する
法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・ 質疑要旨

報告第1号 平成26年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について
(齊田教職員課長説明)

お手元の資料5ページをご覧ください。

まず、1の教諭等の志願状況についてでございます。

志願者総数は、1,503人で、全体の倍率は、前年度より0.3ポイント低い4.3倍となっております。

受験区分別の倍率は、

| | |
|-----------|----------------|
| 小学校教諭等 | 2.9倍 |
| 中・高等学校教諭等 | 5.6倍 |
| 養護教諭 | 7.5倍 となっております。 |

次に、2の栄養教諭につきましては、任用替え見込数8人程度に対し、志願者数が9人、倍率は1.1倍であります。

試験については、教諭等と同じ日程であります。

なお、7月20、21日の両日に筆記試験及び実技試験、7月27日または28日に面接試験を行うこととしております。

【質疑】

(橋正委員)

教育の質の維持のためには、1人1人の教員の子どもへの指導力という点と、採用した教員を優秀な教員に育てるという点の2つが大事だと思っている。

小学校の倍率が3倍を下回る2.9倍である点も気になるが、採用された教員を指導する教員の層が薄いのではないかと考えている。能登地域では、その世代の教員が学校に1人いるかどうかという学校もある。

志願倍率の低さと指導する層の薄さから、教育の質の維持が難しい状況となっていると思うので、計画的な採用をお願いしたい。

(中村委員)

小学校教諭の志願倍率が低いのはなぜなのか。何か原因は考えられるか。

(木下教育長)

知事部局の職員の志願者数も1割程度減少し、金沢市職員採用試験の志願者も同様に減っている。

それらと比較すれば、教員採用試験の減少率は小さいと言えるが、民間企業の採用動向など経済的な要因が大きいのではないかと考えている。また、定性的な点では、いじめや体罰など教育界に関わる報道によって、学生たちの働く場としての希望が減退しているのではないかと考えている。

(中村委員)

経済状況などによって志願者が減るのは理解できるが、小学校教諭と中・高等学校教諭との倍率の差の理由は何なのか。小学校教諭の場合は、ピアノができなければならないなどの条件の違いがあるからなのか。

(齊田教職員課長)

小学校教諭の志願者数は、平成に入ってから、大体500人前後で推移している。小学校というのは、教員養成系の大学でなければ免許がなかなか取れないので、志願者数は概ね一定である。

中・高等学校の方が、年による変動が見られる傾向にある。

(八重澤委員)

例えば、理学部の学生でも、中・高の数学や物理の免許は取れるが、小学校の免許は取れない。小学校教員養成課程では中・高の免許も取れる。

一時期は、現在の国立大学法人に限って小学校の免許を出していたが、その後、私学でも小学校教員の養成が行われるようになった。

小学校の教員養成課程は、単位数が多く教科もバラエティに富み、学生は単位取得が大変だと思う。

(橋正委員)

理学部や文学部でも中・高の免許は取れるが、小学校の免許は取れない。

(木下教育長)

特徴的なことがないか調べたが、特定の大学や特定の地域から減ったというのではなく、総じて少しずつ減っている。更に分析を進め対策を講じたい。

(横山委員)

倍率が10倍を超えていた時代は、教員を目指す者は、どこかで何とかして教員にならねばという思いでフィールド探しをしていたと思うが、現在のように3倍を割り込むような状況では、教員を目指す者は、どこで、どのような教員になるのかなど自分のビジョンを描いて入って来ることができるようになると思う。

そこで、他県から人を呼ぶために、石川ならではのフィールド、石川の教育が目指すものなどの情報を発信し、PRしていくことが重要になってくると思う。

(八重澤委員)

倍率については、採用人数が250人から350人に増えた時点の倍率がほぼ維持されているので、採用枠が大きくなったということが原因の1つだと言える。

質的な確保という点では、受験者の得点分布が一定の枠内にあれば、質的な保証がされているということが分かるのではないかと。

(金田委員長)

350人の採用を続ければ、倍率という点では、このような傾向は続くと思う。質の確保という点では、採用後何年にもわたってトレーニングしていくための研修システムの充実をお願いしたい。

報告第2号 「いしかわ師範塾」学生クラスの受講者募集について
(表教育次長兼教員指導力向上推進室長説明)

お手元の資料6ページをご覧ください。

県教育委員会では、優秀な教員の育成・確保を図るため、今年度から「いしかわ師範塾」を開講いたしております。

現在、講師を対象としたセミナー等を実施しておりますが、8月から大学3年生と大学院1年生を対象とした「学生クラス」を実施することといたしましたので、その概要をご説明いたします。

まず、目的についてでございます。

いしかわ師範塾の学生クラスは、本県の公立学校教員を目指す学生が、講義や演習、学校実習などの実践的な講座を通して、教員としての心構えや授業づくりの基礎などを身に付けることを目的としております。

次に募集対象につきましては、現在、大学3年生または大学院1年生で、平成26年に実施いたします平成27年度石川県公立学校教員採用選考試験の受験を予定している者であります。

講座の概要についてであります。標準コースと短期コースの2種類ございます。

標準コースにつきましては、8月24日から来年6月28日まで全15回の講義および演習に加え、学校での体験実習を行うものであります。

短期コースにつきましては、大学の夏休みや春休みの期間中、5日間に集中して講義等を行うものであります。

資料にありますとおり、4つの日程を用意しております。

募集人員につきましては、今後の状況により流動的ではございますが、標準コースが70名程度、短期コースは、各日程70名程度で、4つの日程を合わせますと280人となります。そして、これら5つを合わせますと350人となります。

受講料につきましては、いずれのコースも無料であります。

受付期間につきましては、標準コースと短期コースA日程については、今月10日から既に募集を開始しており、7月12日まで受け付けております。

また、短期コースのB日程からD日程については、11月に改めて募集することとしております。

申込方法につきましては、県教育委員会のウェブサイトから登録していただくこととなっております。

県教育委員会といたしましては、教員を志望する学生が、いしかわ師範塾でしっかりと力をつけていただき、近い将来、本県の教員となって石川の子どもたちの明るい未来を支

えるため、大いに活躍してくれることを願っております。

【質疑】

(八重澤委員)

いい制度ができたと思うが、学生がこのパンフレットを見て気にしていたところは、Q & Aの「必ず全講座に出席しないといけませんか」という箇所だ。

今の学生は、勤勉ではあるが忙しい者が多く、「やむを得ず欠席する場合は、あらかじめ相談しましょう」とか「課題を与えます」というのなら参加しやすいのだが、このパンフレットの記載のように出席するのが当たり前ということになっていると躊躇してしまう。

確実に石川県の教師になりたいと考えている学生はすぐに申し込んだが、それ以外の学生は、申し込むかどうか悩んでいる様子だった。

また、優遇措置があるかどうかというより、採用試験に生かされますと書いた方が学生には受けがいいと思う。

(金田委員長)

これは、受講した方が間違いなくいいと思う。

(木下教育長)

自分が受講するとどのようなパターンになるのか分かるように、受講者の立場でスケジュールを作ってみることにしている。

(横山委員)

師範塾は、県内、県外を問わず応募できるのだから、県外の学生に対して、石川県で師範塾を受講する意味や重要性をPRすることも大事だと思う。

全部に出席するくらいの心構えで参加すべきだと思うが、このパンフレットはダイレクトな発信型なので、双方向性を意識した柔らかい表現にした方が参加しやすくなると思う。

(中村委員)

このような制度は今までなかったのだから期待している。先ず実施し、問題があれば直していけばいい。

(八重澤委員)

今の学生は、修了証のようなものを出すと喜ぶので、検討してもらえないか。

報告第3号 平成26年度石川県公立高等学校入学者選抜方法について

(竹中教育次長兼学校指導課長説明)

資料7ページをお開きください。

1の推薦入学について、

まず、(1)の推薦入学実施校ですが、アに示しました、全日制の普通科で推薦を実施するのは、前年度同様、ご覧の8校であります。

イに示しました、全日制の普通科におけるコース、専門学科及び総合学科で推薦を実施するのは、前年度同様、ご覧の20校であります。

また、ウに示しました、定時制における実施校は、ご覧の1校であり、輪島高校が、最近の出願状況に鑑み、推薦入学を取りやめております。

次に、8ページをお開きください。

(2)の推薦入学の推薦枠及び検査項目をご覧ください。

先の教育委員会会議でご審議いただき、決定された入学者選抜方針どおり、コースを除く普通科の推薦枠は、20%以内、普通科におけるコース、専門学科及び総合学科は、25%以内となっております。

検査項目については、前年度と同様となっております。

次に、9ページをお開きください。

(3)の推薦要件であります。アの「普通科における推薦入学」実施校につきましては、県が定める推薦要件として、

aの「推薦にふさわしい学力を有すること。」

bの「当該高等学校が定める推薦要件を満たすこと。」

が入学者選抜方針で規定されており、それを受けて、推薦入学を実施する学校からの推薦要件を9ページから10ページにわたって示しておりますので、ご覧ください。

次に、10ページをご覧ください。

イの「普通科におけるコース、専門学科及び総合学科における推薦入学」実施校につきましては、県が定める推薦要件を、

aの「志望する動機、理由が明白かつ適切であること。」

bの「適性、興味及び関心を有すること。」

cの「調査書に優れた点や長所の記録を有すること又は当該高等学校が定める推薦要件を満たすこと。」

と示してございます。

このうち、cの「当該高等学校が定める推薦要件」については、定めている高校はありません。

次に、11ページをご覧ください。

2の一般入学 についてです。

(1)の一般入学の学力検査以外の検査科目 について、全日制課程の学校、定時制課程の学校とも、それぞれ一覧表に記載されているとおりとなっております。

全日制課程においては、27校で面接及び適性検査のうちいずれか一つ又は両方を実施することとなっております。

なお、面接及び適性検査のいずれも実施しない学校は、小松高校、金沢泉丘高校、七尾高校など13校となっております。

次に、(2)の傾斜配点実施校は、前年度同様ありません。

【質疑】

(金田委員長)

適性検査というのは、具体的にどのようなものなのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

例えば、鶴来高校のスポーツ科学コースの場合は、反復横跳びや上体起こしなど、体力に関する検査になっている。辰巳丘高校の場合は、音楽専攻では実技、美術専攻では鉛筆デッサンとなっている。

(中村委員)

実業系の学科、例えば、工業高校の機械システムや電子情報などは、そこに進学することによって、将来、当然にそのような方面の仕事に就くことになるのだが、生徒たちはそこまでの決断ができるレベルにあるのだろうか。あつて欲しいとは思いうし、技能者として早く実社会に出て欲しいのだが、中学生の段階で将来の人生設計を見据えて、電気の分野に進みたいとか機械の分野に進みたいとかの決断ができるものなのだろうか。推薦入学といっても、結局は入りやすいところに行くということになってしまわないかという懸念がある。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

推薦入学の場合は、選抜の資料として、志願者からはどのような意志で希望するのかについての文書を提出させ、学校長からは推薦文が送られてくる。

また、学校内で希望者が多数の場合は、校内で会議を開き、適切であるかについて審査している。

よって、概ね適正に質の高い生徒が集まっているものと考えている。

(中村委員)

システムとしてはそうなのだろうが、実際の中身はどのようなのだろうか。

(木下教育長)

総合訪問を実施しての印象だが、県立工業という学校に入った場合に、総合的な専門科目をどのように履修させるべきか、また、この資料に記載の学科ごとに履修させるべき科目はどのようなものかについて、学校内でもっと議論する必要があるのではないかとことだ。

また、学科の中身を知ってもらうという意味では、パンフレットなどの情報提供についてももっと努力すべきだと思う。

このように、情報の提供の仕方や学ぶ場合のスタンダードをどこに置くかについて、真剣に考えていく必要があると考えている。

(中村委員)

産業界としては、工業高校の生徒には、技能者として早く社会に出て欲しいと思う。4年間大学に行ったのに就職できないということはあって欲しくないし、ただ漫然と大学に行くくらいなら、早く社会に出て技能を身につけた方が良くと思う。

いくら大学を出たといっても、特徴のない大学ではどこの企業も採用しようとしなない。そうすると、大学に行くことによって4年間を棒に振ることになってしまう。大学を出ればいいという時代は終わっている。

(木下教育長)

工業高校を卒業した者が、どのようなレベルにあるかについては、教科の水準や取得する資格で捉えることになるが、これは学科単位ではなく学校単位で捉える必要があると考えている。

(八重澤委員)

学問の中には、時間をかけて熟成させなければならず、しかも早期に始める必要があるものがある。もの作りなどはそうなのだと思う。中学校と高校の進路指導の教員は、子どもにとっては影響力の大きいキーパーソンであるから、それらの教員に対する情報提供や研修が重要だと思う。もの作りのような、長い目で見ると必要のあるものについては、しっかり時間をかけることとインストラクションを与える時期を間違えないことが大切だと思う。

(木下教育長)

産業界の最新の情報やそれぞれの科学的分野における最先端の研究の内容などについて把握していることは大切だと思っている。専門の教員は、どちらかと言うと現状追認型の教育指導方法になりがちなので、最新の情報を授業にどのように取り込んでいくかについて注意喚起をしていかなくてはと思っている。

(金田委員長)

中村委員が指摘するとおり、14歳や15歳の子どもが進路を決めるということなので、高校の教員は中学校への説明を徹底して行い、ミスマッチを起こさないようにしていただきたい。

報告第4号 平成25年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況

(竹中教育次長兼学校指導課長説明)

資料の12ページをご覧ください。

初めに全日制課程についてですが、卒業者は7,859名で、前年より305名増となっております。

うち、大学、短大進学者は4,171名で、前年より172名増加し、卒業者全体に対する割合は、53.1%と若干増加しました。

短大進学者については、ここ数年は減少傾向にあります。大学進学者については、昨

年に比べ進学率が0.4ポイントの増加となりました。

そのうち、国公立大学への進学率は、卒業生全体の18.5ポイントとなっており、平成21年以降は、19ポイント前後で推移しております。

なお、参考までに申し上げますと、10年前の平成15年3月は14.1ポイントでありました。

また、専修学校等への入学者は、1,644名、前年より58名増となっておりますが、卒業生に占める割合はほぼ前年度と同じとなっております。

就職については、1,869名と、前年より57名の増加、割合は23.8ポイントと若干減少しました。

次に、定時制課程についてですが、卒業者は151名で、前年より37名減となっております。

就職者が23名減、専修学校等への入学者が10名減となっており、短大進学者は昨年度と同数となっております。

通信制課程の卒業者は145名で、前年より22名増となっております。

約半数以上が「その他」となっています。

これについては、元々職に就いている者や主婦を別にすれば、一時的な仕事に就きながら高校卒業を目指す生徒が、卒業後も在学中と同じ仕事を続けるケースが多いとの報告を受けております。

以上をまとめますと、就職については、公立高校の3月末の就職内定率が99.2%と、3年連続で99%台の結果となりました。これは、生徒や学校教職員の頑張りはもちろん、多くの関係者と連携した支援策の成果と考えております。

また、進学については、全日制課程においては、国公立大学志向が続き、定時制・通信制では、四年制大学、短大から専門学校まで多様なニーズを持つ生徒がおり、各学校では生徒、保護者の希望に応えるべく、学習指導や進路指導に力を尽くしているところであります。

【質疑】

(金田委員長)

就職については、内定率が99%と高い数値であり、この状態をこれからも維持して欲しい。

(木下教育長)

望むところに就職できたのかという、就職の質的な内容も重要だと考えている。

(中村委員)

3ヶ月や半年で辞める者も多いので、離職率についても把握して欲しい。

(金田委員長)

高校は、離職率についてのデータを持っているのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

毎年、労働局から進学担当者のところへ、就職後1年目から3年目の者の離職率が伝えられていると思う。各学校も離職については気にしており、応募前の企業見学を勧めたり、是非やりたいと思っている仕事以外にもできる仕事があるのだということを伝える取組を行っているところもある。そのような指導が、今後は課題になってくると思っている。

(横山委員)

通信制卒業者は、定時制よりも大学・短大への進学率が高いが、通信制で学ぶ生徒というのは、どのような者が多いのか。

(竹中教育次長兼学校指導課長)

中学校を卒業してそのまま通信制を選んで入学してくる者もいるが、最近では、他校で上手くいかなかったために転入学してくる者や、いったんアルバイトなどに就職したが、正規の職員になることを希望し、そのために高校を卒業したいと考えて入学してくる者がいる。

(金田委員長)

以降の審議については非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第21号 石川県社会教育委員及び石川県立図書館協議会委員の委嘱について(非公開)
坂井生涯学習課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

・閉会宣言

金田委員長が、閉会を告げる。